



11/11 かじのもと こまめにそうじ コンセント

秋季火災予防運動に合わせ、防火意識の向上を図るため消防団や消防署が市内3コースに分かれてポンプ車などの消防車両で防火パレードを行いました。

また、まつぶんこども園の5歳児21名がマーチングを披露し、買い物客に防火チラシを配布しました。



11/17 優良老人クラブ表彰を受賞

市内の老人クラブ「郡新生会」が、令和7年度全国老人クラブ連合会会長表彰で、優良老人クラブとして表彰されました。

郡新生会は、郡町交差点前の「恐竜モ二花壇」の整備をはじめ、環境美化や健康増進の活動に長年取り組まれています。



11/22 奥越でも拉致問題を考える

「拉致・特定失踪者問題の早期解決を願う福井県集会」が市民会館で開催されました。

会場では拉致被害者の曾我ひとみさんや県内の特定失踪者家族が講演を行ったほか、拉致被害解決に向けた署名活動が行われました。



11/26 災害時でも安心を維持

市立図書館で、市と勝山警察署が災害時の施設利用に関する協定を締結しました。

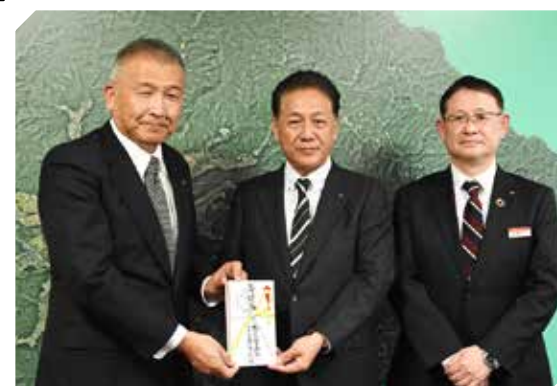
これにより、災害によって勝山警察署が被害を受けた場合、市立図書館とゆめおれ勝山の駐車場が警察活動の拠点になります。



11/30 地域の見守り 任期満了

令和7年度民生委員児童委員退任式がすこやかにて行われ、46人に感謝状および記念品が贈られました。

なお、12月1日に新たに委嘱を受けた民生委員児童委員の皆さんは広報かつやま1月号でご紹介します。



12/1 ご寄附ありがとうございます

越前信用金庫より、SDGsに関する活動に活用してほしいと25万円をご寄附いただきました。

越前信用金庫からは、平成20年から継続的にご寄附をいただいています。



JCHO-Column

「手洗いで命を救った人」ゼンメルワイス

JCHO福井勝山総合病院
麻酔科診療部長 小原洋昭



コロナ禍以降、外出時の手洗いは世に定着したようで、病院をはじめ多くの店舗の入り口では手指消毒用のアルコールが置かれているのを目にします。

そもそも手洗いが感染症の予防に役立つことを発見したのは、19世紀にウィーンで活躍した産科医イグナーツ・ゼンメルワイスです。当時欧州では産褥熱（分娩後の高熱）による産婦の死亡が問題になっていましたが、原因がわからず打つ手の無い状況でした。頭を悩ませていた彼ですが、ひょんなことからある事実気づきます。それは医師がお産を担当している第1病棟では死亡率が高いのに、助産師が担当している第2病棟では低いということでした。普通に考えれば逆の結果になりそうですが、それを疑問に思いさらに観察を続けると、なんとその違いはお産介助前の「手洗いの有無」にあったのです。

当時細菌やウイルスが病気の原因になることはまだ知られていませんでしたが（ロベルト・コッ

ホが炭疽菌を発見するのはその30年後です）、何らかの「悪さをする物質」が手洗いにより除去されているのではないかと彼は考えました。その後第1病棟でも手洗いを励行することにより死亡率は下がったのですが、医学会に彼の主張は受け入れられず、悲嘆のうちに人生を終えることとなりました（時代の先駆者あるあるですね）。

この手法は「仮説演繹法」と呼ばれるもので、今日では科学研究の際に広く取り入れられています。そんなことは知る由もないゼンメルワイスですが、彼の功績はその後多くの命を救うことになりました。皆さんも手洗いの際にこのことを思い出してあげれば、彼も草葉の陰で喜んでくれることでしょう。

